

京北地域保育所の今後の在り方に係る意見と対応一覧

※ 意見内容について、個人情報の特定につながる内容は削除し、一部内容を要約しております。

資料 3

番号	分類	意見内容	対応内容等(本市の考え方)
1	第1回検討会内意見	(子どもの数が減少しているので合併することに反対はしないが、その合併の)時期について、今の3歳児が卒園した後、令和10年度にしてほしい。	現在の児童数減少率を踏まえると、令和10年度には3保育所いずれも入所児童数20名を下回る可能性があり、慎重に検討しつつも再編を先延ばしにすることは望ましくないと考えています。児童の最善の利益を考え、集団保育の提供が困難になりつつあるという喫緊の課題を解決するため、令和9年度に再編を実施することが望ましいと考えます。
2	第1回検討会内意見	各保育所で子どもたちが楽しんでいる多様な遊びや親子 活動、芸術活動などを、全てとはいかなくても、再編後も、できるだけ各保育所の良さを残して遊びや活動ができるようにしてほしい。	これまでの各保育所が地域と繋がりを持って取り組んできた特色を活かした保育をできる限り大事に引き継ぎ、再編後も京北地域の特色や自然を活かした保育を実践していきます。
3	第1回検討会内意見	3保育所が合併されることになったら、(弓削保育所の)駐車場を整備してほしい(駐車場が暗く少し危ないと感じるところがある)。	中・長期的な在り方を踏まえ、大規模な修繕は慎重な検討が必要ですが、再編を契機とした児童数の増減も踏まえながら、遊具の引継や環境面の整備など、保育環境の向上に資する施設のハードについて検討を行い、必要な環境整備を実施します。
4	第1回検討会内意見	弓削保育所は、園庭の遊具がないスペースが、周山保育所と比較してこじんまり感があり、例えば運動会をするときは、保護者も観覧するため、もう少し広い方が良いかもしれない。	再編後の遊具の配置や、行事に必要なスペースについて、保育を実施するうえで、どのような形が望ましいか、引き続き研究していきます。
5	第1回検討会内意見	周山保育所、ひかり保育所の子どもは弓削保育所への集約により、環境の変化が起こるため、各保育所の担任の先生方の勤務をお願いしたい。慣れた先生の方が安心感があると思う。	職員の配置については、様々な要素を踏まえて総合的に判断することになりますが、再編の際には、子どもたちや保護者の環境の変化への配慮の観点を含め、検討します。
6	第1回検討会内意見	弓削保育所は3保育所の中では新しいと思うが、子どもが増えても快適に過ごせるように、耐震性等の強化も含め、設備を整えてほしい。	中・長期的な在り方を踏まえ、大規模な修繕は慎重な検討が必要ですが、再編を契機とした児童数の増減も踏まえながら、遊具の引継や環境面の整備など、保育環境の向上に資する施設のハードについて検討を行い、必要な環境整備を実施します。
7	第1回検討会内意見	保護者の住んでいる場所によっては、送迎負担が増えるので保育時間を19時にするなどの対策も考えてもらいたい。	再編による送迎負担の増加への対応や保護者の様々な就労形態に対応していくため、再編後の本園において開所時間を延長(時間外保育を実施)します。
8	第1回検討会内意見	保育所統合後も、異年齢保育で大体1クラス15名ほどが望ましい。	異年齢保育を実施するうえで、およそ1クラス15名程度の児童数が必要と考えておりますが、その時々児童数を踏まえ、子どもの発達に応じた最適なクラス編成を実施します。
9	第1回検討会内意見	ひかり保育所では3保育所が1つになって、そのときにどうすればいいか、どういう意見を出すかという話以前に、それぞれの自由で選ばせてもらえる今の体制がいいので、何とかそれを維持できないかという意見が多い。	本市が考える望ましい保育環境を維持するために、統合を含めた保育所の再編を検討する必要がありますが、現在の選択肢を残してほしいという御意見なども含めた保護者や地域の御意見を踏まえ、令和9年度の再編に当たって、現在のひかり保育所を活用して分園を設置し、本園と一体的な運営を図っていきます。
10	第1回検討会内意見	ひかり保育所は、保育時間が18時までということがネックである。	再編による送迎負担の増加への対応や保護者の様々な就労形態に対応していくため、再編後の本園において開所時間を延長(時間外保育を実施)します。

番号	分類	意見内容	対応内容等(本市の考え方)
11	第1回検討会内意見	ひかり保育所は、そもそも0歳児を受け入れられない(受入年齢が10か月～)ことが一番ネックである。もし、ひかり保育所で0歳児を受け入れることができれば、状況は変わるはず。	分園を設置し、本園と分園での受入歳児について、ともに「産休明け」からとすることで拡充を図り、保育所利用のタイミング及び選択肢の充実を図ります。
12	第1回検討会内意見	保護者の中には、ひかり保育所を分園として残す方法や、統合以外の選択肢の検討をお願いしたいという意見もあった。 弓削保育所を本園で、ひかり保育所を分園とするのが、周辺を見ると妥当なのか、それとも今後、もっと子どもが減ることも踏まえたら、1つが妥当なのか。	現在のひかり保育所を活用し、分園を設置し、本園と一体的な運営を行うことで、自然豊かな環境等を最大限活用した形での保育の実践や保護者の送迎負担の軽減につなげます。 一方、再編後もその時々状況の変化に応じて、分園の存置を含めた保育所の在り方は継続して検討する必要があると考えています。
13	第1回検討会内意見	統合先が弓削保育所になるということであれば、どうやって送迎を続けていけるか考えている。送迎バス以外の可能性もあるのではないかと考えており、ふるさとバスやデマンド交通の活用なども含めて、考えてほしい。	送迎バスや、その他デマンド交通などの活用を含めた具体的な送迎支援はルートが多岐にわたり、保育時間も様々であること等の課題があり、現時点で持続可能な送迎支援を実現することは困難ですが、本園の開所時間の延長などにより、保育所として送迎負担の軽減を図ります。
14	第1回検討会内意見	ルートの的に少し難しいが、小中学校のスクールバスと一緒に乗せてもらい、小中学校から弓削保育所に送ってもらえれば、安心して利用できる。	現時点で持続可能な送迎支援を実現することは困難ですが、分園の設置や開所時間の延長などにより、保育所として送迎負担の軽減を図ります。また、将来的に京北地域の交通の結節点である京都京北小中学校、京北出張所付近への移転が実現した際に、その時点のニーズ等を踏まえて検討します。
15	第1回検討会内意見	交通網の観点から考えると、周山地区の京都京北小中学校の辺りに新しい保育所ができると良い。谷沿いの道路は峠が少なく、安全に運行できる。保護者負担も減るうえに、バスの運行経路からしても良いと思う。また、弓削保育所についても3保育所の中では新しくても、平成4年建築のため老朽化の問題もある。	活用を想定している弓削保育所においても近い将来、大規模修繕や建替え等が必要となる可能性が高いことや京北地域における現在の交通網整備状況、積雪に伴う道路の除雪対応(幹線道路が中心)や土砂災害等の災害発生リスクを踏まえると、中・長期的な保育所の在り方として、利用者である保護者の利便性が確保しやすく、子どもの災害等のリスクを最大限回避できる可能性がある京都京北小中学校、京北出張所付近に、保育所を新設のうえ移転することが望ましいと考えております。
16	第1回検討会内意見	実現可能性までは考えられていないが、京都京北小中学校の空き教室に保育所を作ることも可能性として考えられるのではないかと。保育所から中学校まで全て同じ場所にあれば、保護者の負担は楽になる。	京都京北小中学校、京北出張所付近に保育所を新設のうえ移転することが望ましいと考えていますが、京都京北小中学校の空き教室の活用については、小中学校の活用には制限を与える可能性があること等、課題もあるため、保育所新設の具体的な場所は別途検討が必要だと考えています。
17	第1回検討会内意見	京北地域では雨が降っていない場合でも大雨警報が発令されるとお迎えをお願いされることが負担である。再編により1箇所になるとより遠いところまで、雨が降っていないのに迎えに行かないといけなくなる。	実際には雨が降っていない場合でも、子どもの安全確保を最優先に、大雨警報が出た際には、原則お迎えをお願いしております。気象警報等以外に独自に基準を設けることは難しいですが、御負担をおかけしていることは承知しておりますので、安全確保を最優先にしつつ、改善の余地がないか検討します。
18	第1回検討会内意見	ひかり保育所では、地域の方の協力で鮎のつかみどりの体験をさせてもらえると聞いた。各保育所でそれぞれの地域の特色を活かした行事をしており、合併したらその地域との行事までなくなるのは残念。地域と保育所というつながりを残してもらいたい。	これまでの各保育所が地域と繋がりを持って取り組んできた特色を活かした保育をできる限り大事に引き継ぎ、再編後も京北地域の特色や自然を活かした保育を実践していきます。
19	第1回検討会内意見	若い子育て世代を増やして、子育てがしやすいと思ってもらえる地域を、地域全体で作っていくことが大事だと思う。	御意見のとおり、地域で子育てしやすいまちづくりを行うことが大事であり、保育所も地域とともにできることを考えて実施していきます。

番号	分類	意見内容	対応内容等(本市の考え方)
20	第1回検討会内意見	合併によって使われなくなった保育所を子どもの遊び場として集いの広場みたいな感じで利用できるようにするなど、有効に活用してもらえたら嬉しい。	安全確保のための体制確保等、課題がありますが、再編後の保育所では土曜日を地域に開放すること等を検討しており、こうした活動を通じ、今後も地域の子育て支援の充実を図ります。
21	第1回検討会内意見	児童が減っていくなかで、再編され1つになることはいいとしても、1つになったことで魅力的な保育所にしていただきたい。	保育所の再編を行うことで、将来にわたり持続可能なものとして、安心して子育てができるよう、地域に根差した保育所として保育の提供を維持していくことを基本としながら、4つの柱と12の取組項目から成るアクションを新たに取り組むことで、保育内容の充実や京北地域の特色を活かした保育の展開、積極的な子育て支援施策の推進や子育て環境の魅力発信、更にはそれらを売りにした移住支援に資する取組充実など、京北地域の魅力が詰まった保育所として機能するよう、地域・関係機関とともに取り組んでいきます。
22	第1回検討会内意見	子どもが少人数であることに対して不安はなく、平穏な自然豊かな京北だからこそ移住している人もいるということは分かってほしい。	京北地域の豊かな自然を活かした保育を望む御意見など、これまでから様々な御意見をいただいております。本市が考える望ましい保育環境を維持しつつ、そのような御意見もしっかりお聴きして最善の対応を講じていきます。
23	第1回検討会内意見	再編により利用しなくなる施設の活用について、事業所として使っていただける方法を考えていただきたい。働く場所ができて、地域の雇用を増やしてほしい。それによりまた若い世代が住むようになれば子どもも増える。	再編後の施設について、京北地域においてどのような活用が望ましいか、本市とともに地域が主体となって考えていく必要があります。
24	第1回検討会内意見	他の地域でも1～2週間保育所を体験できるというサービスもあり、市街地からバスを出して、保育所を体験できるような取組を実施しても良いと思う。	京北地域外の方に京北の保育所の魅力を知っていただく取組は重要であり、御提案の取組なども含め、保育所として魅力を発信できるような事業の企画・実施を検討していきます。
25	第1回検討会内意見	保育所に行かない土日や祝日に開いている、屋根がある遊び場が京北にあまりないため、整備してほしい。保育所の保護者だけでなく小学生以上の保護者もきっと同じ思いで、土日に遊ぶところがなく困っていると思う。	保育所が開所している土曜日は、保育所を地域に開放するなど、保育所としてできる取組を検討していきます。
26	第1回検討会内意見	適切な保育を受ける権利は人口が少ない地域であっても、等しく保障されるべきであり、子どもが減っているからといって統合による園の削減をすることには納得できない。福祉サービスの公平性を損なうことについての説明を求めたい。統合以外の選択肢が十分検討されていない中で、単純な園数削減は拙速。人口減少地域でも柔軟な運営モデルで保育サービスを維持することができる可能性について、議論の余地がある。人口が少ないことを理由に保育園を統合することは、かえって地域の魅力を下げ、若年層の流出を加速させ、移住の妨げになるといった悪循環を生むため、統合によるコスト削減の短期的なメリットよりも、長期的な地域存続の視点が優先されるべき。	本市としては子どもの最善の利益を考え、集団保育の提供が困難になりつつあるという喫緊の課題について検討する必要があり、その中で、御指摘の点や多様な保育ニーズ、地域振興の観点などを含め、京北地域における最善の方針を策定するため、検討会を開催し議論しているものです。京北地域の豊かな自然を活かした取組の継続など、魅力ある保育所として機能するよう、地域・関係機関とともに取組を行ってまいります。

番号	分類	意見内容	対応内容等(本市の考え方)
27	第1回検討会后意見	<p>京北の3保育所で周山、弓削は土砂災害の急傾斜崩壊警戒区域に一部入っており、ひかり保育所も土石流警戒区域に一部入っている。いずれも罹災リスクがある上、罹災を免れてもアクセス道が災害時に寸断され孤立する危険がある。また京北では、近年急速に熊の出没が増えており、山林が近いこれらの保育所では今後熊に対する対策に苦慮する事が考えられる。児童・生徒と違い、迅速な避難に大人の補助が必須の幼児には大きなリスクと考える。</p> <p>以上の事と弓削保育所でも既に竣工から30年以上経過していること、アクセス利便性、バスでの送迎の可能性を考えたときに、検討会でも意見が出た小中一貫校の校舎の一部を利用した形の、増改築を施した上での新設が最も良いと考える。</p> <p>防災拠点として元から考えられており、浸水想定区域・土砂災害警戒区域に校舎が入っておらず、山林も獣害対策を施すのが北側の一方向のみになるので守りやすい。</p> <p>敷地面積の関係で大変厳しいとは思いますが、統合やむなしであれば出来れば実現してもらいたい。</p> <p>また次善の考えではあるが、上記の通り3保育所それぞれがハザードマップの警戒区域に入っている以上、そのどこかに統合するというのなら浸水警戒区域内の元第一小校舎を活用しても良いのではないのか。避難計画を策定した上で活用することが、利便性、建物の耐用年数、保育環境を考えた時に良いのではと感じる。</p>	<p>児童の安全確保は最優先であり、災害リスクや京北地域の交通網などを踏まえると、京都京北小中学校、京北出張所付近への将来的な移転が望ましいと考えています。その具体的な場所については、引き続き様々な要素を踏まえ、検討していきます。</p>
28	第1回検討会后意見	<p>もし統合するのなら統合場所は旧第一小学校の校舎を再利用してほしい。</p> <p>議事録に次の発言がある。</p> <p>1、「3保育所が合併されることになったら、駐車場を整備してほしい」</p> <p>2、「今、小学校はバスで行くので、小学校から保育所へ送ってもらえたらいいと思う」</p> <p>3、「バスだと、少なくとも乳児は誰かがいないと乗れない」</p> <p>4、「京北の保育所は山の上に多い、どの保育所も冬になると車の運転が大変(除雪が必要)」</p> <p>5、「(弓削にすると山国は)峠を越えないといけない。峠は雪の問題もある」</p> <p>6、「周山の小中学校の辺り」なら「交通網としては非常に良いと感じる」</p> <p>7、「もし保育所から小学校、中学校まで全部、同じ場所にあったら保護者の負担は楽になる」</p> <p>この7つの発言は3については検討が必要だが、それ以外は全て旧第一小学校の校舎の再利用で適応できる。</p> <p>このことは京都市としては、すでに承知されていると思う。</p> <p>なお今、旧第一小学校に入居しているコトスだが、活動している気配がないので、統合保育園に校舎を譲り、小中学校内へ移れば良いと思う。</p> <p>それと、小中学校の校舎内や敷地内に統合保育所を設置した場合、バスロータリーから校舎までの階段が急こう配なので心配。保育園児の身体能力では、上がり降りの時に転落する危険性がある。</p>	<p>京都京北小中学校、京北出張所付近に保育所を新設した場合、災害リスク等の軽減や様々なメリットがあり、京都京北小中学校、京北出張所付近への将来的な移転が望ましいと考えています。その具体的な場所については、引き続き様々な要素を踏まえ、検討していきます。</p>
29	第1回検討会后意見	<ul style="list-style-type: none">・保育所を統合することにより移住する人の選択肢が狭まる・居住地による経済的格差が生じる(送り迎え等)・少人数保育を望む <p>以上の理由から統合には反対したいが、どうしても統合するしかないのならば</p> <ul style="list-style-type: none">・施設をきれいに整備してもらいたい(京北に住むメリットとしてアピールできる)。・せめて分園としてひかりを残してほしい(通うのが遠い為)。・先生は変わらず勤務して欲しい。	<p>児童数が減少するなかにあっても本市が考える望ましい保育環境を維持しつつ、京北地域の豊かな自然を活かした保育を望む御意見など多様な保育ニーズ等を踏まえ、保育所の在り方を検討していきます。</p> <p>再編にあたっては、必要な施設の整備などを検討するとともに、職員の配置などは子どもたちや保護者の環境の変化の観点も含め総合的に検討していきます。</p>

番号	分類	意見内容	対応内容等(本市の考え方)
30	第1回検討会後意見	<p>まず、保育所が統合される前提で話が進んでいるように感じ、とても悲しく思う。 実際に毎日通って過ごすのは子供達であり、そのことを絶対に忘れずに慎重に検討してもらいたい。</p> <p>■残された施設の活用 保育所がひとつに統合された場合、使用されなくなった二施設はどうなるのか。 今現在、第一、第二、第三小学校はよい活用のされ方がされてるとは思わない。非常に勿体ない状態。商業的利用が可能等、利用の幅を広げて欲しい。(京丹波町の旧質美小学校のように地域の方が出店できる等)</p> <p>■スクールバスの導入 降雪の時期は車を出すだけでも一苦労であり、通う施設が遠くなるということは、それだけ時間も掛かりますし危険も伴う。 南丹市美山町のように、保育所もスクールバスを検討してほしい。</p> <p>■地域コミュニティとの関係継続 地域のコミュニティとの関係が失われるのではないかと懸念する。 (京北小中学校が統合後、校長先生や教頭先生が変わりそのようになってしまったので) 今まで地域の方のご協力のもと実施していた、地域に根差した行事は継続してほしい。</p>	<p>本市が考える望ましい保育環境を維持するために、統合を含めた保育所の再編を検討する必要がありますが、保護者や地域の方の御意見を踏まえて京北地域における最善の方針を策定するために検討会を実施しているところです。引き続き、子どもたちの最善の利益を念頭に、検討していきます。</p> <p>再編後の施設について、京北地域においてどのような活用が望ましいか、本市とともに地域が主体となって考えていく必要があります。</p> <p>スクールバスについては、ルートが多岐にわたり、保育時間も様々であること等の課題があり、現時点で持続可能な送迎支援を実現することは困難ですが、再編後の本園において開所時間を延長(時間外保育を実施)するなど、保育所として送迎負担の軽減を図ります。</p> <p>地域コミュニティとの関係については、これまでの各保育所が地域と繋がりを持って取り組んできた特色を活かした保育をできる限り大事に引き継ぎ、再編後も京北地域の特色や自然を活かした保育を実践していきます。</p>
31	第1回検討会後意見	<p>・フルタイム勤務になると18時まで仕事がある日も出てくる可能性があるため、「開所時間を18時半(～19時)まで延ばしてほしい」という意見には賛成。女性が安心して子どもを預け、働ける(より働きやすい)環境になってほしい。</p> <p>・黒田地区の住民にとっては、ひかり保育所がなくなることは大きな変化であると思うが、現状人数をふまえると継続が一番厳しいのかなとも感じる。(細野も似たようなことで休園しているし)もしなくなったらどうするか、通園サポートや今後の使い方(あそび場として整備するとか)については議論したほうが良いのかなと思う。継続するならばどうすればいいか、なくなるならばどうすればいいか、の話をもっと詰めれたら良</p>	<p>再編による送迎負担の増加への対応や保護者の様々な就労形態に対応していくため、再編後の本園において開所時間を延長(時間外保育を実施)します。</p> <p>また、将来的に京北地域の交通の結節点である京都京北小中学校、京北出張所付近への移転を目指し、それまでの間は、児童数や保育ニーズ等を踏まえながら分園を設置します。</p>
32	第1回検討会後意見	<p>自分の子を育てている頃はひかり保育園に通わせており、お迎えの時間は、いつもギリギリか保育終了時間を過ぎてからになってしまうこともあった。それでも、今の場所に保育所があるから仕事を続けることができた。これが弓削に通わせていたら、私は仕事を辞めなければならなかったと思う。</p> <p>保育所がないことで、フルタイムで働けない所に、息子や娘達にふるさとで暮らすことを勧められなくなる。間違いなく村が急激に寂れていくと思う。田舎の暮らしは都市部とは違い暮らしにくいこともある。少し前までは僻地保育は街より少し手厚いのが当たり前だった。</p> <p>ひかり保育所だけでなく、周山保育所も同じだと思う。三ヵ所の保育所は残してどこに通わせるか選べるままにしてほしい。また、弓削保育所だけになると、自分専用の車がないと子供の送り迎えができなくなる。バスでの送り迎えも無理になるような場所に統合することはどう考えても無理がありすぎると思う。</p>	<p>本市が考える望ましい保育環境を維持するために、統合を含めた保育所の再編を検討する必要がありますが、その中でも、子どもの最善の利益を考え、最大限望ましい保育環境を維持し、保育サービスを提供し続けることが重要であると考えています。移住促進の観点や保護者の送迎負担、京北地域の豊かな自然を活かした保育を望む御意見なども踏まえ、必要な対応を検討・実施していきます。</p>

番号	分類	意見内容	対応内容等(本市の考え方)
33	第1回検討会後意見	<p>京北・保育所再編についての指示書 未来を憂う子育て世代の一人として、これは請願ではなく、国民が持つ主権を行使する指示を送ります。憲法前文、第1条より主権は国民に存することから、設計権を行使します。 1、保育所を再編する前に、地域住民と保護者、従業員への十分な説明と公開審議を実施すること。 2、地域住民の同意を得る手続きを設けること。(地域住民投票、公聴会など) 3、合併ありきではなく、三箇所運営の現状維持・現状を発展する方法を最優先とし、保育所を利用するすべての人になにかしらの不利益を与える場合はそれを止めること。 4、利権や行政都合ではなく、保育所を利用するすべての人の生活・福祉を最優先した基準を設定すること。 5、子どもの安全、教育環境、保護者の就労・生活への影響を調査し、公開すること。 6、プロセスと判断理由を透明化し、公式記録に残すこと。 7、京北地域の置かれた環境と状況を踏まえて、京北地域独自の判断基準を明示すること。 本件は市民の記録として公開・保存します。</p> <p>家庭の数だけ保育に望む形は様々であり、その中で、私たちはひかり保育所の存続を望む。その理由は「保護者(こども)が選択できる機会を奪わないでほしい」から。小規模型の保育所として維持することが、地方活性の可能性を秘めている。子育て世帯の転入を増やすには、保育・教育環境の充実が不可欠である。市長が推し進める転入促進政策(住宅取得補助やこども誰でも通園制度)を導入は、これらが土台に必要であり、今京北地域で推し進めようとしている保育所の再編・合併案は、これら政策効果を相殺するリスクがある。 平成17年の京都市への編入により市営保育所となったが、それ以前からひかり保育所はもともと常照皇寺の保育所であり、名前の「ひかり」は、常照皇寺を開創した南北朝時代の光厳法皇の名から一字とり名付けられている。保育所と地域の繋がりが密接にある。 保育所の合併は、過疎・中山間地域での転入促進には効果がなく、逆効果のリスクがある。しかし、具体的な施策例から小規模保育を維持・推進することで、地域活性化や関係人口の増加が実現可能であることが、すでに国内の自治体で示されている。特に、過疎地域や中山間地域においては、地域資源を活用し、地域住民との連携を強化することが重要であり、小規模保育を地域密着型で維持・発展させることが、子育て世帯の定住・転入に寄与することにつながっている。 最後に、一番近くで子どもたちを見ている先生方に率直な意見をお伺いしたい。</p>	<p>本市が考える望ましい保育環境を維持するために、統合を含めた保育所の再編を検討する必要がありますが、保護者や地域の皆様の御意見を丁寧に聴き、様々な保育ニーズ等を踏まえた最善の対応を検討するため、保護者や地域の代表の方に参画いただき、検討会を開催し議論しているところです。また、その内容を保護者や地域の皆様に知っていただくため、本市ホームページに公開するとともに、チラシを配布し、随時保護者や地域の皆様から御意見をいただけるように周知しております。 本市としては、児童数が減少するなかにあっても、子どもの最善の利益を考え、最大限望ましい保育環境を維持し、保育サービスを提供し続けることが重要であると考えています。そのうえで、移住促進の観点や保護者の送迎負担、京北地域の豊かな自然を活かした保育を望む御意見なども踏まえ、必要な対応を検討・実施していきます。</p>
34	第1回検討会後意見	<p>・現在少人数なりに、取り組み内容に合わせ3保育所合同の取り組みと一方保育所ごとでじっくり向き合う取り組み基本があり、京北ならではの工夫がされていると聞く。実際京北に合わせたこの保育方法に支障なり、改善要求が出ているのか。 ・保育所統合の話にはいつも相応しい集団規模を挙げられるが、だれの幼少期も先生や友だちと向き合い安定した環境で自分を育て世界を広げていく、ゆったりとした基礎体験が必要な時期かと思う。勿論個人差があり、そこは現在取り組まれている合同と保育所毎の取り組みで発揮していくのではないかな。 ・京北地域の特性に合わせた上記のような内容も大いにあると思う。その最たるものとして、「鮎のつかみ取り」など地域の人々の力も得ながらより味わい深い保育機会が得られるのも京北ならではの財産である。残念ながら京北小中一貫校になって以降、学校教育に地域との連携が少なくなり、見えにくくなった。広域故の先生方の行動も難しく、バスダイヤ中心の教育場面もそれを産んでいるかと思う。昔から地域の持つ教育力がありながらもとても残念に感じる。幼少期こそそんな体験をさせてあげたい。 ・弓削保育所にひとまとめにと聞いた。そうすると、京北は広域で、保護者の働き方に支障が出、冬場送迎の大変さも想像でき、現在以上の家庭への負担が一段と大きくなる。 ・公的施設が無くなり、学校が一カ所に統合された京北をこの間見てきた立場として、住人が減ることは必至だと思う。しかし、まだまだ残る豊かな自然環境を生かした京北の生活と地域の人との関わりが残るこの地に魅力を感じて移住希望される子育て世代もいる。地元住民以上に移住者は、京北のこんな知的財産に気づいており、両者が交流しつつ京北を大切にしていかなければ勿体ない。今まで通り3つの保育所を残しながら工夫する保育所であってほしいと思う。 ・学校統合時も今回の保育所の話にも、経済効率が感じられなくもなく、子どもや生徒・地域保護者の声を受け止め共に考える慌てない進め方を検討願いたい。「一貫校教育に魅力を感じて移住者が増える・・・」とかつて京北住民に語ってきた一貫校計画だったが、大きく増えることはなく、その上に保育所通所に不便さがあり地域に保育所が無いところに移住促進は進みにくくなると感じる。</p>	<p>本市が考える望ましい保育環境を維持するためには、持続的に集団保育を提供するため、統合を含めた保育所の再編を検討する必要がありますが、再編により子どもの人数が増えたとしても、子ども一人一人を主体として受け止め、丁寧な保育を行うことに変わりはありません。また、京北地域の豊かな自然を活かした取組の継続など、魅力ある保育所として機能するよう、地域・関係機関とともに取組を行ってまいります。 人口減少対策は今後も行っていく必要がありますが、全国的に人口減少、少子高齢化が進行するなか、少なくとも今後数年間は児童数が減少する見込みで、令和10年度頃には3保育所いずれも20名を下回る可能性が高いため、早急に在り方を検討し、方針を策定する必要があります。</p>